P34　小学校の実践

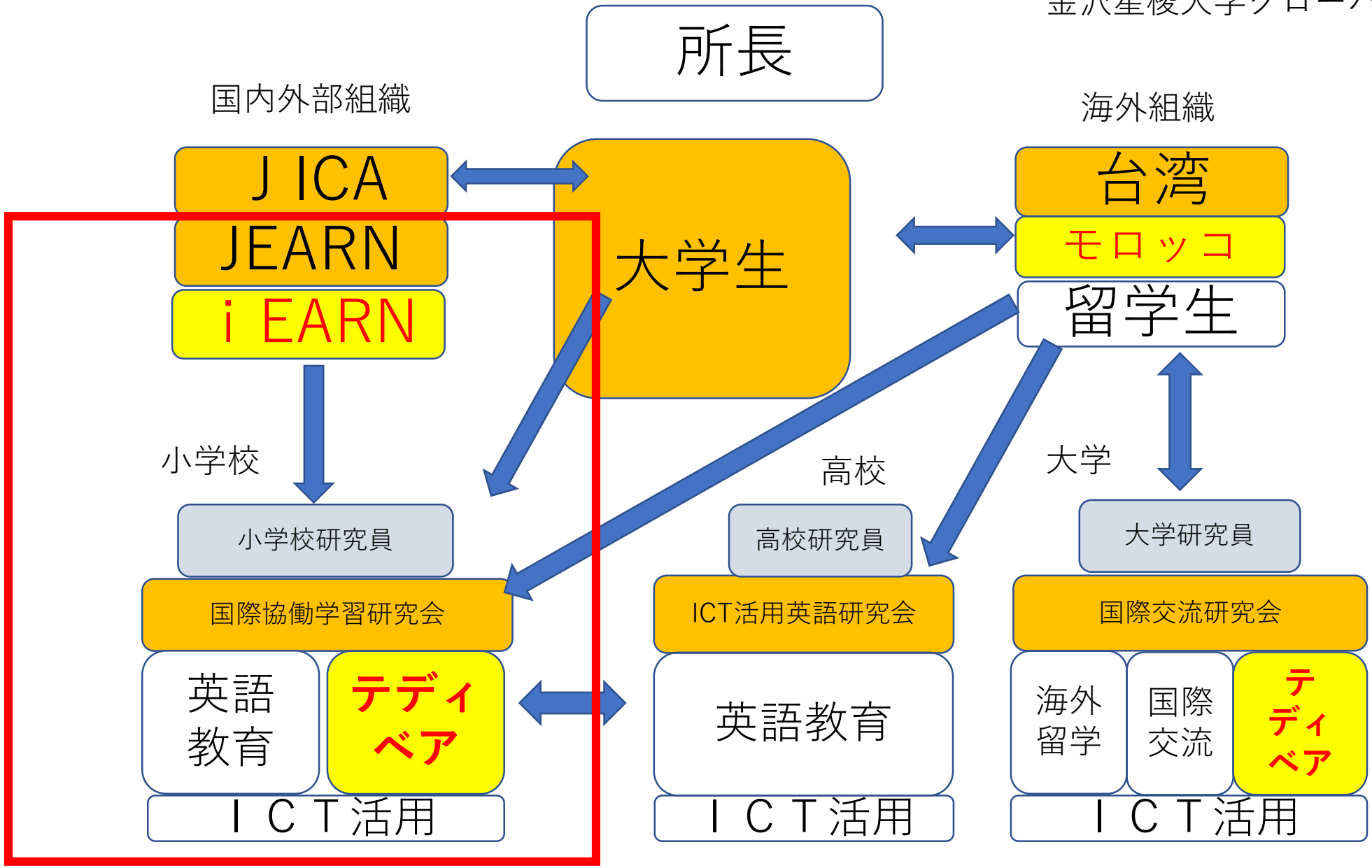
テディベアプロジェクトと大学の支援

小学校英語を活性化させる可能性のある国際交流プロジェクト

金沢星稜大学　人間科学部　清水和久

金沢星稜大　国際協働学習支援体制

金沢星稜大学グローバル教育研究所



研究の目的

- 小学校英語を活用した国際交流の在り方と
- 大学の効果的な支援方法について

研究の方法

1　背景としての小学校英語
　・金沢市の小学校英語について
　・文部科学省のWe can2について
2　国際交流プロジェクト事例
　・小学校での実践したテディベアプロジェクト
3　大学の支援体制
　・小学校と大学との合同研究会
　・大学生の支援的な関わり

1. 背景としての小学校英語

•金沢市の小学校英語

・平成16年(2004年)　小中一貫英語教育特区
副読本　Sounds good 1，２（3，4，5年）
中学校1年生の教科書　ユニット4まで（6年）

・平成24年（2012年）教育課程特例区
副読本　Sounds good　Hop, Step, Jump

・平成28年（2016年）金沢型学校教育モデル

・平成32年（2020年）教科化
聞くこと、話すこと（やりとり・発表）
読むこと、書くこと

金沢市の小学校英語副読本

	副読本	内容
3年	Sounds Good　HOP　前半	基本表現
4年	Sounds Good　HOP　後半 Sounds Good　STEP　前半	基本表現 身の回りのこと
5年	Sounds Good　STEP　後半	身の回りのこと
6年	Sounds Good　JUMP	表現　学校紹介　市の紹介　交流

金沢市小学校英語副読本　Sounds Good Jump（6年）

	単元名（使える表現）	内容	項目
unit 1	Welcome to kanazawa	はじめまして、得意、先生紹介	◎
unit 2	Our school	学校紹介、好きな場所、時間割	◎
unit 3	A Specail Guest	おもてなし、金沢伝統文化	◎
unit 4	Our town	金沢名所、偉人、数字クイズ	◎
unit 5	Our sister cities	姉妹都市、留学生自己紹介	◎
unit 6	A Farewell Party	金沢について話そう	◎
unit 7	Writing A Letter	留学生からの手紙、文字	◎
unit 8	Our World	世界の国々	○

１－２文部科学省　小学校英語教材

３年	Let’s try 1	外国語活動：　基本表現
4年	Let’s try ２	外国語活動：　基本表現
5年	We can!　1	外国語：　学校生活、1日の生活
6年	We can!　2	外国語：表現　町、地域　日本の文化 思い出

We Can!　2　（6年）

	単元名（使える表現）	内容	項目
unit 1	This is Me!	自己紹介	○
unit 2	Welcome to Japan.	日本の文化	◎
unit 3	He is famous. She is great.	人物紹介	◎
unit 4	I like my town.	自分たちの町・地域	◎
unit 5	My summer Vacation.	夏休みの思い出	◎
unit 6	What do you want to watch!	オリンピック・パラリンピック	◎
unit 7	My Best Memory.	小学校生活・思い出	◎
unit 8	What do you want to be?	将来の夢・職業	◎
unit 9	Junior High School Life.	中学校生活・部活動	◎

金沢副読本と文部科学省との比較

	金沢　JUMP	文部科学省 WE CAN! 2
自己紹介	自己紹介「はじめまして」	自己紹介
文化紹介	金沢伝統文化	日本文化紹介
人物紹介	偉人クイズ	人物紹介
地域紹介	金沢名所紹介・金沢について話そう	町、地域紹介

（外国語）

知識及び技能の留意点

- 音声、文字及び符号、後、連語及び慣用語、文及び文構造の育成を目指して言語活動を行うことで指導する
- 教員は、内容については専門的な知識が必要となる

（外国語）
思考力・判断力、表現力の留意点

3，4年生　→　自分ことを中心に表現
5，6年生　→　学校、町、市、伝統文化などへ拡大

〇社会科との関連を意識
　地域の情報や歴史などを取り入れて、相手意識目的意識を
　もって英語で表現することにつながる。
△クラスの中だけの活動
　相手が、伝える前からその情報を知っている場合が多い
　目的意識や相手意識が低いまま行われ、機械的な練習の危険。
〇金沢市の副読本のJumpのトピックス
　金沢市の紹介を外国の交流相手に伝える設定

２．国際交流プロジェクトの活用

課題	解決策
海外との交流は相手を見つけるのが難しい。	交流したい意志のある教師との出会いが必要
ゴールを決めておかないと自然消滅	交流前のゴールの明確化
交流のペースを合わせるのが難しい	やるべきことの明確化 自校のペースでできる

２．国際交流プロジェクトの活用

- iEARNとは？　international Education and Resource network
  125カ国、30,000以上の学校が参加
  学童向けカリキュラム＋教育者向け研修制度
  iEARN International Conference and Youth Summit

- JEARN とは？　Japan Education and Resource network
  iEARNの日本センター
http://www.jearn.jp/japan/index.html

i E A R N

JEARN
各国iEARN
各国iEARN
iEARN
Collaboration center
多数のプロジェクト
各国iEARN
各国iEARN
各国iEARN

特定非営利活動法人
JEARN グローバルプロジェクト推進機構 ジェイアーン

▼ English

JEARN 国際教育ネットワーク

Japan Education and Resource Network

JEARN（ジェイアーン正式名称は「グローバルプロジェクト推進機構」）は、世界最大の国際教育ネットワーク、iEARN（アイアーン）の日本センターとして、日本で初めての本格的な国際協働プロジェクトを推進する教育NPO（特定非営利活動法人）です。

iEARNが展開するICT（情報通信技術）を活用した毎年150以上もの国際協働プロジェクトを、インターネットテレビ会議などのICTを活用した新しい仕組みで、「学校と地域との連携」を基礎に会員のみなさまの国際協働プロジェクトを支援しています。

- 理事長あいさつ
- JEARNとは
- iEARNとは
- iEARN.international
- ご入会手続き
- ご紹介Flyer
- 活動報告2017
- 紹介PowerPoint
- オンライン・ジャーナル

What's New

友達19人が「いいね！」しました

iEARN

Learning with the world,
not just about it ...

iEARNは、140カ国以上にある3万以上の学校や団体からなるグローバルなNPO教育ネットワークです。インターネットや新しい通信技術を使用したオンラインで、毎日200万人以上の学生が世界中の共同プロジェクトに参加しています。

iEARN アイアーン
Collaboration Centre
コラボレーション センター

アイアーンプロジェクト（国際協働プロジェクト）についてご紹介します

- 世界にペンパル作ろうよ！（Pen Friend Club）

PFC
The 60th anniversary

IMG_0953.jpeg IMG_1362.jpeg IMG_1350.jpeg IMG_1353.jpeg IMG_1368.jpeg すべて表示

国際交流プロジェクトをベースとする

2017年度　テディベア参加小学校6校(金沢)

	参加学校　９クラス	交流国
1	四十万小学校　6年　2クラス	台湾
2	額小学校　6年　3クラス	台湾　スペイン、イスラエル
3	西小学校　5年　2クラス	台湾
4	大野町小学校　5年　1クラス	台湾
5	田上小学校　５年　パソコンクラブ	アメリカ
6	金沢星稜大学	モロッコ

★台湾は星稜大学の学生が直接現地を訪問できるため、手厚い支援を行うことができる

実際のＳ小学校での展開事例（台湾との交流校）

月	活動内容		児童の姿
9.10月	相手国、自国文化理解（調べ活動）	・交流国の調べ活動 ・八田與一さんの業績と台湾と金沢との交流を知る ・「金沢の魅力」についての調べ活動	・４年次にふるさとの偉人として、八田與一さんについて学習した経験を想起し、昔から交流が続いていることに驚いていた。
11月	交流活動	・留学生を送る準備（留学生募集→キャラ設定→自己紹介カード作り） ・自己紹介の手紙作り	・インストラクターに助けてもらいながら、既習の英語を活かす良い機会となった。 ・冬休みのホームステイでは、日本の文化に触れさせてあげたいと、保護者も協力してくれ、年末年始の行事を経験させてもらった
12月	紹介ビデオの制作	・紹介ビデオの内容を決める（「金沢の魅力」、学校紹介、コマやけん玉などの日本らしい昔遊びなど）	・風土の違いを学んだことや、実際に台湾からのお客さんが、雪を見て大変喜んでいたことを知り、雪の風景を送ることを決める
2月	留学生の帰国準備	・星稜大生からの台湾滞在報告 ・思い出いっぱい帰国プロジェクト・滞在日記作り（学校生活、冬休みのホームステイ）	送ったぬいぐるみの帰国を今かと待っている。

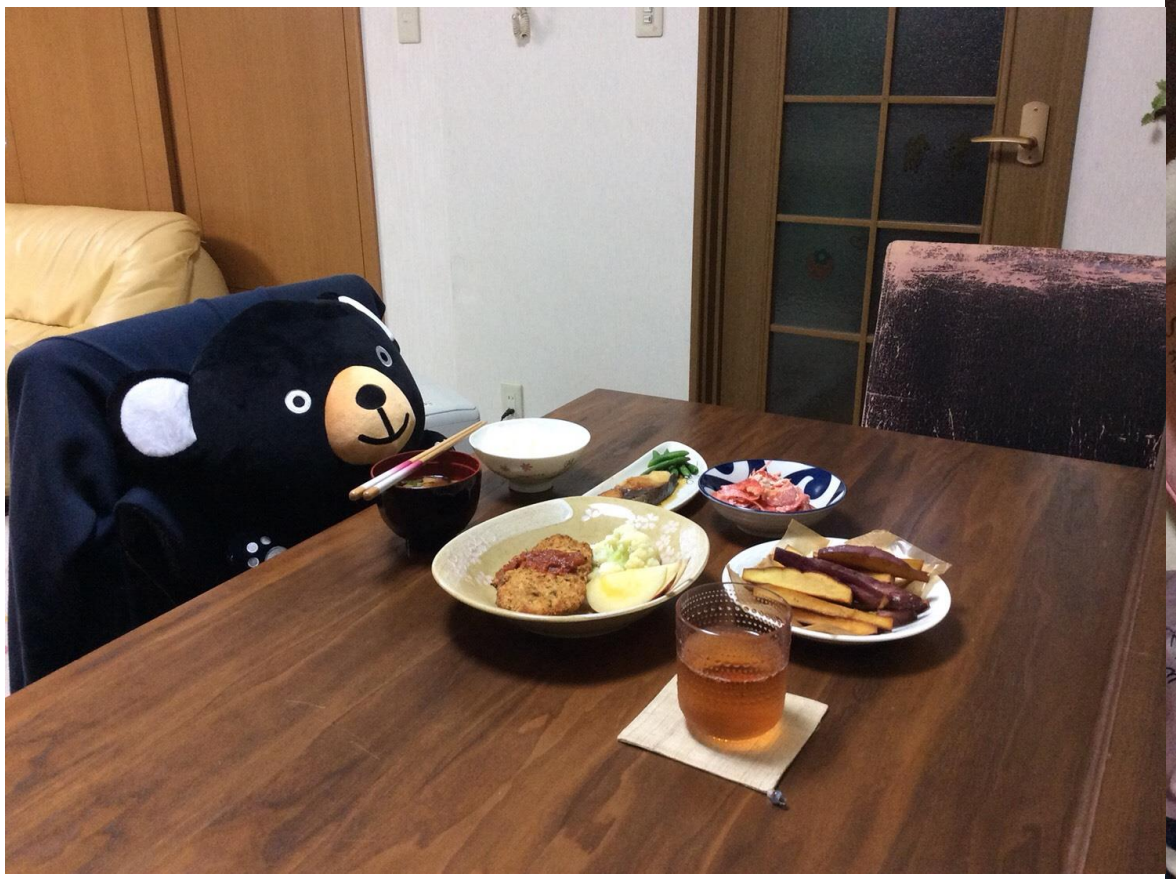
台湾から届いたぬいぐるみ

テディベアプロジェクト

- ぬいぐるみを交換留学生として交流校に送り、ぬいぐるみを通した自文化紹介、異文化理解を行う　資料参照

台湾から来たブラック滞在の様子

ぬいぐるみを交換留学生として交流校に送り、ぬいぐるみを通した自文化紹介、異文化理解を行う　資料参照



日本から行ったクロの台湾の様子

クリスマスカードを受け取る台湾のこども

① 春子は、日本の着物がたくさん着れる所へ行きました。
Haruko went to a shop which had a lot

② 大人っぽい物、色あざやかな物、さらに着物にぴったり
of Japanese traditional dresses, Kimono.

のかみかざりがたくさんあったよ!
There were adult-like and colorfut things

③ 春子も着物に挑戦したよ!
and many hair accessories.

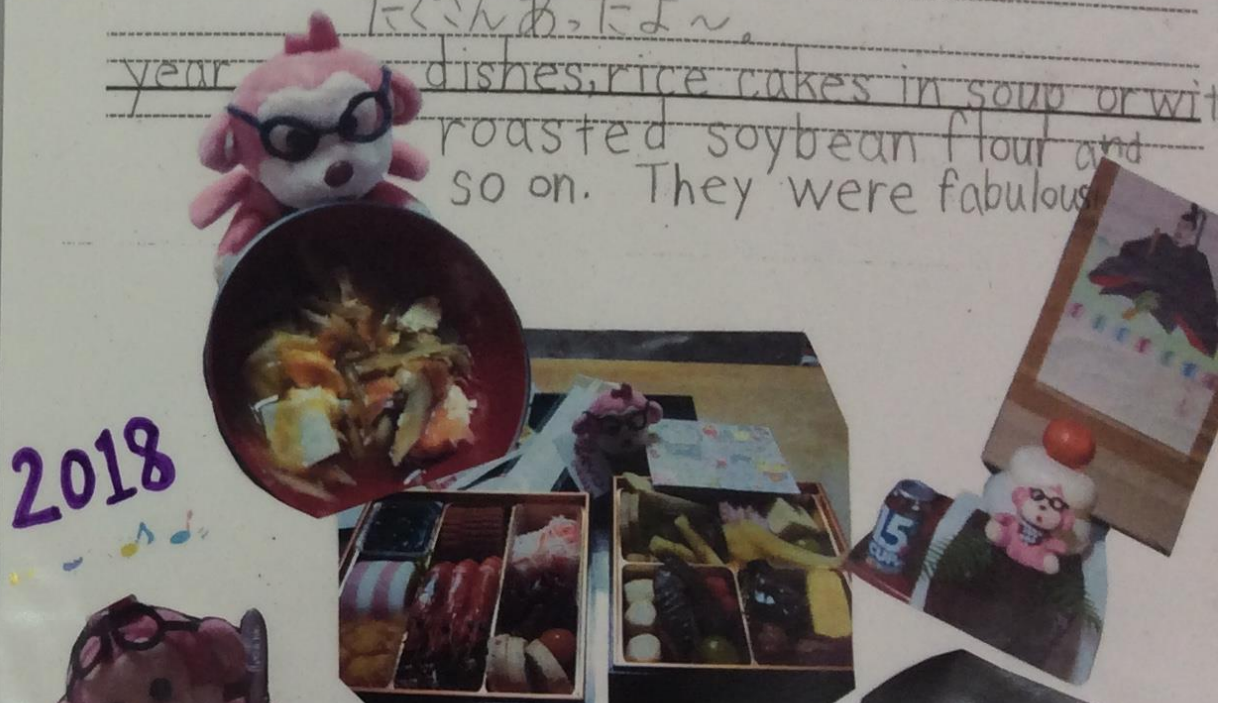
Haruko also challenged kimono.

① 日本の年越しの様子。春子も猫とふれあいながら
This is how Japanese celebrate the Ne

② 無事に年を越しました! 新年 2018年!!
Year. Haruko greeted the New Yeav, play

③ おせちにおぞうに、きなこもち! いろんなおいしい食べ物が
with a cat. A Happy New Year, 2018!! Ne

たくさんあったよ~。
year dishes, rice cakes in soup or wit
roasted soybean flour and
so on. They were fabulous



① ソバを食べます
I'm eating soba.

② おいしそうですね
It looks so yummy doesn't it?

③ 習字をしています
I'm challenging calligraphy.

④ きれいですね
Isn't it nice?

ケーキを食べています。
I ate a cake.

おいしそうです。
delicious.

こたつに入っています。
sleep in table type heater.

あったかそうです。
very warm.

テディベア・プロジェクトの利点

＜良い点＞

- 手ごろ、3か月ぐらいの期間でできる
- 担任教員独自の工夫ができる
- 相手にそんなに相談しなくてもできる→ハードルが低い
- 児童はぬいぐるみに感情移入しやすい
- メディア機器の活用の可能性
- ＜課題点＞
- テディベアを中心としたもう一段上の課題が必要
- 英語の日記の付け方の工夫

単元	行った活動	その効果
世界とつながろう～国際交流～	ぬいぐるみ留学生の準備	・金沢や日本のよさについて、再確認できる。
世界とつながろう～国際交流～	クイズ作り	・相手国について、知ることができる。 ・誤解をしないためには、相手を知ろうとすること、知ることが大切だと気づいた。
Writing A Letter	手紙を書く。	・実際に読んでもらう相手がいることで、英語で手紙を書く意欲が高まる予定だった。
Welcome to Kanazawa	相手校への、自己紹介の文章を書いた。	既習の英語を使い、自身のことを表現出来るのだという積み重ねてきた力を実感出来た。
UNIT7 Writing A Letter 留学生からの手紙	自己紹介カードを相手に向けて、手紙を書いた。	英語で書くことの必要性があり、それが、交流につながるので、子ども達の学習意欲は高かった。スペインで日本のアニメの人気が高いと分かったので、挿絵も喜んでもらえるように工夫して描いていた。

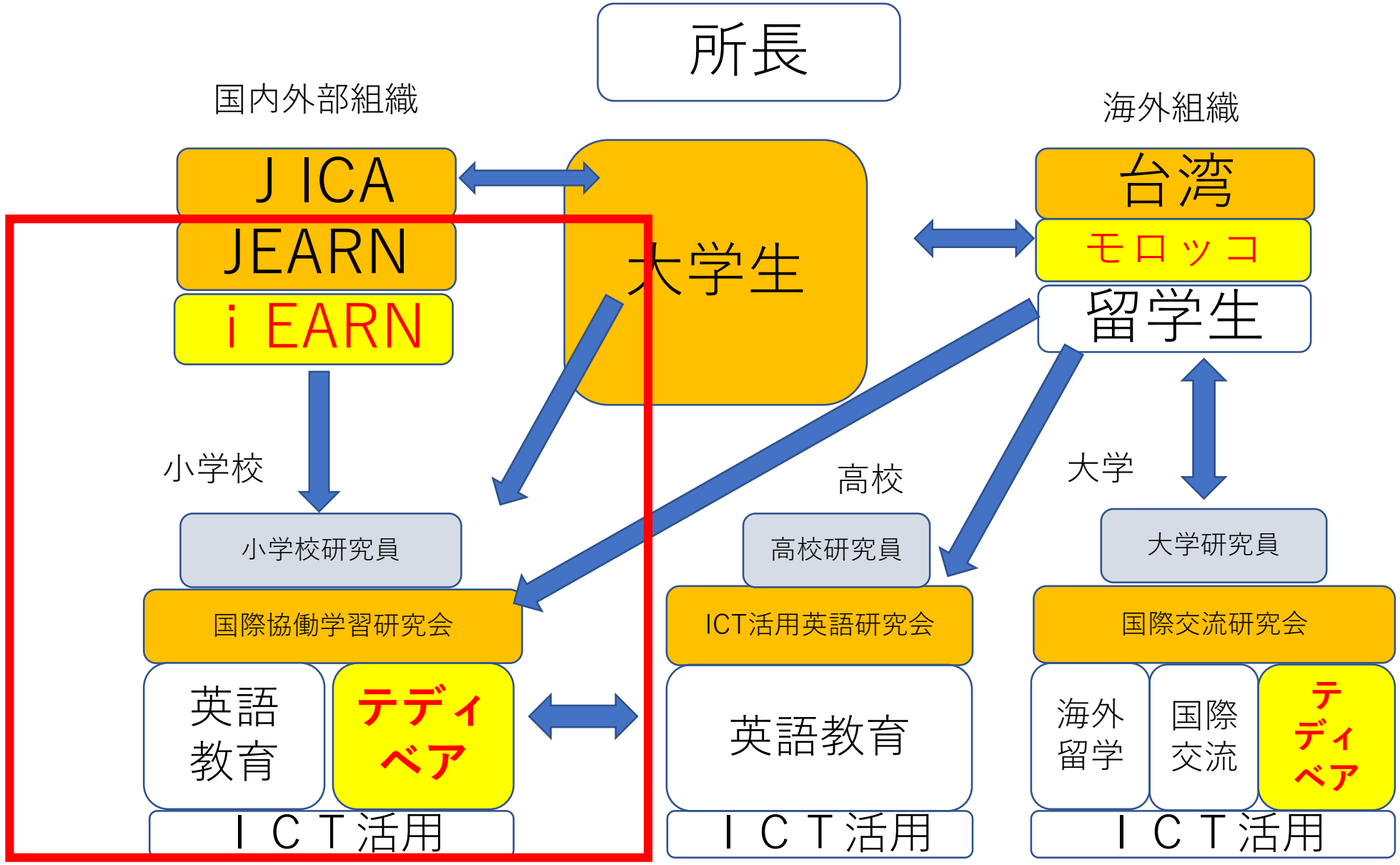
＊UNIT7だけでなく、Jumpのどの単元も手紙の内容につながっているので、事前に手紙を交流校の友達に書くことを伝えれば、英語の授業へのモチベーションが高くなると思う。

金沢星稜大学と小学校との共同研究会

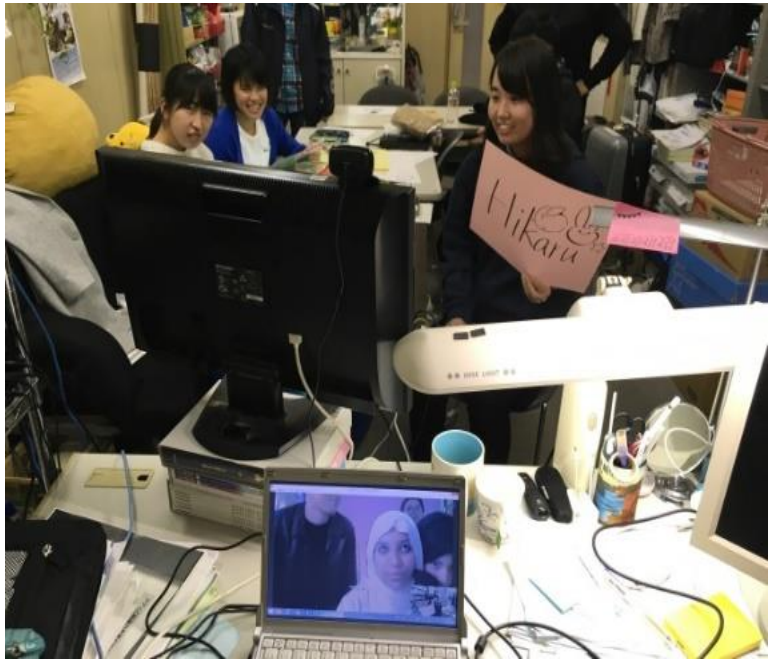
３－１大学と小学校との共同研究会

回	研究会の内容	小学校での実施内容
1	6月：国際協働学習研究会の趣旨説明　テディベアプロジェクトの説明	地域コンテンツの収集
2	7月：JEARNへのオンライン申し込み　交流校のマッチング	地域コンテンツの収集
3	8月：フォーラムの書き込み練習　教師による自校の紹介書き込み	教師による交流先の教師との交流
4	9月：交流相手の正式決定　スタートに当たっての留意点の確認	ぬいぐるみの性格付けと交流校への送付
5	10月：スタート時からの経過報告　、学校紹介などの準備	交流校からのぬいぐるみの受け取り
6	11月：国際交流の経過報告　100人村ワークショップ打ち合わせ	学校紹介コンテンツの作成　Skype会議実施
7	12月：国際交流の課題について　台湾訪問時の紹介ビデオ内容	ぬいぐるみ滞在コンテンツの作成
8	１月：まとめの会　台湾の小学校の訪問時の報告	帰国準備

金沢星稜大グローバル教育研究所



大学生自身も　モロッコとテディベア



３－２小学校と大学側のwinwinの関係

大学側（学生）

- 国際交流導入授業として
  「100人村ワークショップ」
- 交流校（台湾）への訪問
- 台湾の教材化
- 翻訳支援
- メディアの活用支援

小学校側

- 導入授業の受け入れ
- ゲストティーチャーとしての大学生の受け入れ
- 国際交流単元の運用の提示
- メディアの活用

大学生による台湾の交流小学校への訪問

- 2018年1月3日～1月7日
- 嘉義市、台南市、高雄市の4校

<任務>

- 日本にやってきたテディベアを台湾に返す
- 日本の学校紹介のビデオ編集と台湾での報告
- 台湾の小学校の取材と帰国後の日本での報告

学生：メディア活用力の育成
台湾の児童、教室の交流

大学生の台湾訪問でのプレゼン

台湾台南市億載小　漁光分校　訪問

まとめ

＜国際交流の効果＞

- ペアーを決めての交流→　相手意識
- Skype会議　　→　英語が伝わる喜び、アドリブ力向上
- 相手国からの情報　　→　マスメディアにない特別観
- 大学生の台湾代理訪問　→　児童の臨場感の高まり

＜英語との関係＞

- 英語を使う必然性のある場面の設定
- 国際交流をベースとした英語の学び
- 自分のことを伝えたいという思いを持つことで英語がツールになる

＜大学と小学校との連携＞

・機器の支援、ノウハウの支援、教員志望の大学生がサポート